

AV JOURNAL

1992年 3月 第 22 号



〈デジジョンルームにて〉

目 次

“外大における語学教育” 外国人教師による座談会 (第8回).....	2
〈LL 便り 1〉 テープ・ライブラリーの利用状況について	10
〈LL 便り 2〉 映像資料 (レーザー・ディスク) 所蔵一覧 その9	16

大 阪 外 国 語 大 学

“外大における語学教育”

外国人教師による座談会 第8回

(1991年12月19日)

出席者

宿 玉堂	(中国語)	視聴覚教育委員会委員長
クルシュレーシュタ、スジャータ	(ヒンディー語)	溝 上 富 夫
フン グェン マイン	(ベトナム語)	視聴覚教育委員会小委員
パルダン・ミューラ、マーティン	(デンマーク語)	上 野 義 和 (日本語→英語通訳)
ユオ エヴリーヌ	(フランス語)	上 神 忠 彦 (中国語通訳)
フョードロヴァ エレーナ レオーノヴァ	(ロシア語)	郡 史 郎
<通 訳>		
英語→日本語	田 尻 雅 士	
ベトナム語	富 田 健 次	
ロシア語	神 山 孝 夫	

溝 上：「この座談会は今回で8回目であります。この座談会の目的は日頃語学教育にあたられている外国人の先生方からいろんなご意見をお伺いして、より良い教育方法を考えるのに役立てると同時に、外国人の先生どうしの相互交流と言いますか、お互い意見を交換する場を提供するというのも目的の一つです。しかし、本学には20名ほどの客員教授の方がいらっしゃるのですが、20名の方全員にお集まりいただくというのは物理的にも不可能でありますし、また、実りのある議論ができるとも考えられませんので、毎年ほぼ東洋語学科から3名、西洋語学科から3名の先生を選んで集まっていただいております。だいたいローテーションの基準を決めまして、全ての学科にゆきわたるように配慮しております。その基準の一つは、新しい先生でとくに1年とか2年しか滞在なさらない先生には是非加わっていただくこと、それと逆にもう十年以上も教えられて定年でやめられる先生、そういう人は優先することにしてますが、普通は大体4～5年のサークルで各学科に回るようになっております。

それでは、早速、新しく本学におみえになりまして、語学教育を担当された先生にお伺いいたします。まず、席順でいきますけれど、ヒンディー語のクルシュレーシュタ先生に、日本に来られる前に大阪外国語大学についてどう思っていたか、そして、外大に来られていざ学生と接触した時の第一印象はいかがでしたか?ということをお尋ねいたします。」

クルシュレーシュタ：「まず、皆様方にクリスマスと新年のお祝いを申し上げます。私は、インドでは外国人にヒンディー語を教えた経験はありません。ですから、日本へ来て初めて外国人にヒンディー語を教えることに若干の不安はありました。しかし、同僚の先生方の協力を得て首尾よく職務を全うできたことを嬉しく思います。最初学生に接した経験を二つに分けて申し上げたいと思います。一つは、すでに2、3年間ヒンディー語を学んだ学生に対する印象、もう一つは、全く初めてヒンディー語を学ぼうとする学生についての印象を分けて申し上げたいと思います。2、3年間学んだ学生については、当然私とヒンディー語でしかもヒンディー文学につ

いて、あるいはインドの文化について話してくれるものと期待しておりました。ところが、彼らは、本はかなり良く読めるのですが、話すことになると、しり込みしてなかなか話してくれない、ということが意外でした。何よりも私の困ったのは、一生懸命説明しても、それを分かっているのか、分かっているかということが、こちらには分からないことです。質問をしてくれないのです。ですから、この点が私のいまだに解せない点であります。彼らがどうしてあんなにおとなしいのかということが分からないのです。それから、全く初めてヒンディー語を学ぶ学生については、私は、ダイレクト・メソッド（直接教授法）で初めからヒンディー語のみを介してヒンディー語を教えたかったし、現にそうしようとしているわけですが、やはり限界があります。そういう場合には、英語を使いますが、英語ぐらいはもう少し分かってくれるだろうと思っていたのですが、英語でも難しいということが分かりましたので、この頃はボディ・ラングエイジといえますか、アクションで教えたりしています。本当は直接教授法で教えたいのですが、限度を感じました。』

溝 上：「有難うございました。スジャータ先生のおっしゃられた問題は、外大の語学教育全般についていえることだと思いますので、またこの点については後ほど議論したいと思います。

それでは、ベトナム語のフン先生。2、3年前にお越しなんです、この会は始めてでいらっしゃいますので、やはり同じ質問をさせていただきます。つまり、外大に来られる前に外大にどういうイメージもっておられたか、いざ来られて最初の印象は何であったでしょう？」

フ ン：「最初の印象ということなんですけれども、私はその前に、少し日本語を勉強したことがありまして、日本人の生活とか暮しぶりとか、あるいは性格というもの

は若干存じておりました。その第一は、日本人に対して批判的になるかと思うんですけれども、日本人は、世界一外国語を知らない国民という印象をもっていました。しかし、日本に来て感じたのは、そうではなくて、逆に世界一いろんな言語に接している国民であるということに気がつきました。特に、英語を使って生活することが非常に多いのではないかという印象をもちました。それから、もう一つは、日本人は、日本語や文化に中国語の影響、また、仏教の影響を強く受けて、そういう意味でも勤勉であるけれども、あまり口を開かない、物を言わない。これは、むしろ中国の影響ではないだろうかと思います。日本に来て、私が最初にやり、今もやっていることは、クラスの初めの15分間、いきなり授業に入らないで、たとえば、学生が遅刻してきたならば、どうして遅刻したのかというような話とか、あるいは、天候の話とか、家族のことなどをまず話をさせて、それから、本論の授業に入るように心がけています。そのことによって、学生にできるだけ会話をさせるように努力をしています。もちろん、英語を使うこともあるし、漫画や先ほどおっしゃったボディ・ラングエイジのようなジェスチャーを使うこともあります。』

溝 上：「有難うございました。席の順番からいきますと、中国語の先生ですが、まず、最初に参加なされた方からお伺いします。ロシア語のフォードロヴァ先生は今年始めて外大に来られたそうです。外国人にロシア語を教えるのがご専門だそうですが、当然張りきってお越しになったと思うんですが、張りきってお越しになった甲斐がありましたかどうか、その第一印象をお伺いします。」

フォードロヴァ：「ロシア語教育を始めて非常に長くなりますけれども、非常に多くの民族の方を教えてきた経験をもっております。日本人に教えることも大した違いはないと思っ

ていたのですが、日本のこの学校に赴任して初めて教室に入った時には、非常に大きなショックを受けました。1回目、2回目、3回目だけでなく、いまだにずっと続いておりまして、先程、クルシュレーシュタ先生がおしゃったように、日本の文化が深く根ざしているのであろうと思っております。私の専門といたします教授法のことですが、そのことを少し役立てたような授業をしようと思うと大変つらいものがあります。つまり、思うように教えられないのです。」

溝 上：「フォードロヴァ先生に具体的にお尋ねいたしますが、最初に受けられたという大きなショックとは、学生が全然答えてくれなかったということでしょうか、それとも、先生のロシア語を全然理解してくれなかったということでしょうか？」

フォードロヴァ：「ちょっと訂正したいと思いますが、驚いたというより、むしろ、学生の反応の仕方が非常に変わっているように思いました。民族性というものが反応に表れるということは当然のことです。問題は、私がどういう風に学生に対処したらいいかということです。私は、ここに来てまだ1年目でございますので、どういう風に教えたらいいいのか、その方法を試行錯誤しながら探しています。ここ1年間教えていて、かなりの進歩が見られます。一番最初には、学生にかなり閉鎖的などころが見られましたが、それは、かなりの改善がみられます。私は提案がありま

して、日本人に対して外国語を教える際に用いられるべき教授法のハンドブックみたいなものを作るのはいかがでしょうか。これが第一の案です。2番目に言いたいことは、提案ではないのですが、口語ですね、喋っている言葉を教えるということは難しいとはに私だけが感じたことではなくどこでも難しいことです。どこでも読む方が重視されるというのは、当然のことです。問題は、教授法であります。ロシア語だけでなくどんな言葉でもかまわないのですが、我々教師が何をしなければならぬかという、2番目のことの続きでありますけれど、このLL教室にあるものをもっともっと積極的に活用しなければならないと思います。当然でありますけれど、学生の耳を鍛えることが絶対的に必要であると思います。何故かと言いますと、学生が学んでいる言語が話されている環境、言語環境を人為的に作る必要があると思うからです。」

溝 上：「有難うございました。私は、最初に印象のようなものを語ってもらって、具体的な提案は、その後で語っていただく予定だったのです。具体的な提案をいただきましたが、それにつきましては、後で議論することにしまして、まず、先生方に一巡させていただきたいと思います。」

それでは、フランス語のユオ先生は日本には長くいられて、本学での教育経験も豊富でいらっしゃると思いますが、この会には初めてご参加ですね。それでは、そういう立場からお聞かせ願いたいと思います。」

ユ オ：「私は大阪外大では約3年間教育経験がありますが、以前にも他の大学でフランス語を教えた経験があります。従いまして、外大と他大学との比較なども出来ると思うのですが、一言で言いますと、外大の学生は、非常にいいということです。まず、彼らは、きちんと出席しますし、非常に礼儀正しく挨拶などもきちんとでき、また、彼らは、笑顔が素晴らしいと





いいですか、いつもニコニコ笑っている。従って、非常に教えやすい。また、彼らは、好意的でもあり全力を尽くしてフランス語を勉強しているという様子がうかがえます。まあ、たまには、怠ける学生もいますが、それはそんなに大きな問題とはなっておりません。また、彼らは、私にいろんな質問をしてくれます。フランス語のことですか、あるいは、トピックがフランスのことになると、フランス人の習慣や考え方といったものも聞いてくれます。私の方の努力といたしましては、とにかく、クラスで笑いを起こすように努めております。笑いということは、非常に重要なことだと思います。また時々、男子学生をからっかたりしております。男子学生というのは、女子学生に比べますとなにか子供っぽく、一方、女子学生は、成熟した感じがあるということが、私の印象です。とにかく、笑いをおこすことが、非常に重要だと思います。そうすることによって、クラスを楽しむということになってきますし、その結果、彼らの勉学の方にも励みがでると、私は考えております。』

溝 上：「有難うございました。学生に対してきびしい評価をされる先生と、ユオ先生のように非常に肯定的、好意的な評価をされる先生と大きく二つに分かれたのは、面白いと言えば面白いと思います。中国語の宿先生はこの座談会への出席は2回目です。いらっしゃいますけれども、先程、

ベトナム語のフン先生が、日本人が無口なのは、中国の文化の影響だろうとおっしゃいましたけれども、そういうことも含めて、それが正しいのかどうかも含めて先生の、来日以来の教授経験についてお話していただければと思います。』

宿 先生：「私は外大での教職経験はこの出席者の中で一番長いのではないかと思います。もう10年になります。在日期間が長いと申しましたが、実はその間の経験といってもそれほど大したわけではないので恥ずかしいと思いますが、中でもその10年間、日本語をきちんと勉強しなかったとういことを少し悔いています。特に、初級のグレードの学生達を教えるときには、やはり、日本語というものが大事な要素になるのではないかと思います。

それから、先程、ベトナム語の先生からお話のありました、日本の学生達の学習態度に中国の文化などの影響があったのではないかということについてお話ししたいと思います。中国、日本の両国の間には、数千年と数えられるような長い関係があります。特に、その中で儒教の影響ですが、中国の儒教というのは、いろんな形でいろんな国に伝わっていますが、その影響が一番大きいところは、私の考えでは、やはり日本だと思います。中国から漢字が日本に伝わりまして、漢字を通じていろいろな文化、言語はもちろんですが、政治・経済などの上でも密接な関係をもってきたと思います。漢字とい



うのは、今でも非常に重要な要素で、たとえば、日本人と中国人が、どちらから見ても、漢字を見ますとお互いに親近感を持つという状況があります。」

溝 上：「途中遮って申し訳ございませんが、日本人の学生が一般に無口だというのも、儒教の影響だと考えていいですか？」

宿 宿：「そのご質問はとても難しいと思います。複雑になると思います。私も学生諸君が教室で主動性が足りなく、積極的に自分から発言したりしないと感じますけれども、それが儒教の影響であるかどうかは難しい問題で、お答えしにくいと思います。ただ、日本と中国の間は、先程申しましたように、儒教の影響もあって似ていることが多くて、たとえば、物の考え方とか行動の様式などは、非常によく似ていると思います。」

溝 上：「パルダン先生にお伺いする前に、フォードロヴァ先生に一つだけお尋ねしますが、先程、先生が日本人の学生は、他の民族と変わっているとおっしゃいましたが、変わっているとうのは、日本人の学生が無口であるということですか？」

フォードロヴァ：「一言でいいますと、閉鎖性だと思います。」

溝 上：「はい、分かりました。それでは、やはりこの座談会は2回目ですらっしゃいますパルダン先生に外大に来られてからの学生に対する印象と教授法についてお伺いいたします。」

パルダン：「私は、こちらで教え始めまして4年目になりますが、最初教え始めたときのショックは克服しました。私のある同僚が言うのですけれども、最初ここで教えたときに、あたかも、水族館の前で魚と対面しているような印象を受けたそうです。先生方がおっしゃいました外大の学生の引込思案な面、そして、フランス語の先生がおっしゃいましたフレンドリーな面の両方があるということをおは認めます。たとえば、私どもの学生の中にも、北欧のことにいろいろ興味を持って、奨学金

を得て北欧諸国に出かけていくという学生もいます。彼らは、言ってみれば、一つの文化的な島国から脱出していつているわけです。その他の積極的でない学生について言いますならば、そういう学生達は、受動的にこの学校から卒業していくと言うか、させられていくと言うか、そういうような印象があります。しかしながら、本来あるべき姿は、能動的にこの学校の課程を終えて巣立っていくというのが望ましい姿だと思います。外大のことだけに限ってお話するのはいいかかと思いますが、外大というには、日本的でない部分もあるわけですので、先程、クルシュレーシュタ先生が自分達のクラスの学生を二種類に分けられました。つ



まり、その言語をかなり習得している人達、そして、していない人達。私は、そういうような分け方をいたしません。むしろ、私なりの二分法といいますのは、まず第一のグループというのが熱心に学び、海外に雄飛していこうという学生の一群であります。第二のグループは、外大というの、いい大学だということで入学してきたというような消極的な学生であります。後者の学生達が、先程、私が言いましたような卒業させられていく、受動的な学生なのであります。しかしながら、その問題のためには、まず日本の大学入試のシステムというものを吟味する必要があります。それは、あまりにも非合理的なシステムであると思

ます。外大に求められる学生というのは、言語がよく出来る学生なのですが、それもとりわけオーラルな面で互いにコミュニケーション出来るような学生が本当に必要だと思います。外大には、優秀な学生もおりますけれども、言語をコミュニケーションすることになるとよい耳を持たない学生が多いように思います。ですから、もう一度繰り返しになりますけれども、私がかこの学生を二分するとしますならば、積極的な学生、消極的な学生、そういうことになります。

溝 上：「有難うございました。パルダン先生から入学試験に対する改革の提案などいただきました。確かに入学試験は、非常に大事なことでありまして、本学も来年度



から部分的に面接試験を導入しようとしていたり、徐々に改革しようとしているわけですが、こういう大きな改革というものは、一朝一夕にはいかないもので、当然、そういうことは我々の間でも話題になっているのですが、非常に難しい問題だということを指摘させていただきます。それから、残り時間もあまりありませんので、ロシア語の先生をはじめいろんな先生方からいろんな提案をいただきましたが、それらを残り30分でとても語り合えるとは思えません。それで、新しい試みとして、残り30分をどなたでも自由に発言頂いて討論し合うということにしたいと思います。」

クルシユレーシュタ：「先程、私は、初習者と既習者とに分け

ましたのは、最初来たばかりの時で事情がよく分からないため、そういう分け方をしたのです。現在では私も、パルダン先生がおっしゃいましたように好奇心をもっている学生と、卒業させられていく消極的な学生に分けるということに賛成であります。そういう好奇心をかりたてるためには、私達教師も単なる教師であるだけでなく、教師であると同時に彼らの友人であるということをお心かげないといけません。そして、好奇心旺盛ないい学生は、どんどん私に質問し、話しかけています。二つ問題点があると思うのですが、一つの問題点は、彼らがなかなか会話を交わすようなチャンスに恵まれないということでありまして。それから、これは、ハードウェアの面なんですけれども、確かにいいLLの機械がありますけれども、その説明書が全て日本語で書かれていますので、せめて英語で書かれた説明書があればと思います。」

パルダン：「その点は、3年前に私も提案しました。」

溝 上：「非常に耳の痛い提案をいただきました。また、当委員会で考えさせていただきます。それで、フリートーカーと言いなながら私がこのような質問をすることは、越権行為かもしれませんが、先程、ユオ先生が非常に面白いことをおっしゃいました。女子学生が非常に増えております。女子学生の方が成熟していて、男子学生の方が子供っぽいとおっしゃいましたことについて、他の先生方のご意見をお伺いいたします。」

ユ オ：「女子学生の方が成熟しているというのは、外大だけでなくどこでもそうじゃないでしょうか。」

溝 上：「非常に面白い指摘ですので宿先生どうぞ。」

宿 上：「中国語科について私が感じたことをお話したいと思います。10年前に外大で教え始めましたが、その頃の中国語科の学生を見ますと男子学生が3分の2、女子学生が3分の1ぐらいでした。その頃、



フランス語科では、丁度数が逆転していて、女子の数が多いいことを聞きました。私は、その時は中国語科というのは変わっているのだと思っていました。と言いますのは、一つは、フランス語科と比べたということもありますが、もう一つは、中国での状況で、中国では外国語をやる学生は、やはり、女子の方が多いいのです。中国では学問の分野でそういう違いがありまして、たとえば、日本と非常に変わっているのは、医学をやる学生に女子学生が多いということです。これは、日本人が聞くと非常におどろくことなのですが、分野によって日本と違ったところがあるということです。その頃、中国語科では男性が多いいので私は、驚いていました。それから10年経ちまして、状況がいろいろ変わってまいりました。ここ3年間の状況を見ますと、女子の方が増えまして先程の話と丁度反対になりまして、フランス語科と同じように女子が3分の2、男子が3分の1という状況になりました。この変化自身は、社会の自然な変化と言いますか、止むをえないことですし、経済の発展に伴って国際化ということもありまして女子学生が外国語を勉強することが多くなったと思います。私達の問題は、教室内でのことですが、教室内ではよく勉強する学生と消極的な学生がいます。消極的な学生は、入学して、学校へ来ても休憩して遊んでいて卒業、就職していくという図式になっ

ているように思います。一つには、日本では卒業が非常に容易であるということが問題だろうと思います。もう一つは、会社の方の求人が問題で、あまり勉強していない学生でも外大や他の大学を卒業して、しかも男子学生であれば喜んで迎え入れ、いいポストを与えるという状況があるためだと思います。また、クラスの運営についてもう一度申しますと、たとえば、25人のクラスですと、全部が全部非常によく勉強する学生でなくとも私はいいと思いますが、その内で3人とか4人、割合積極的にクラスを引っ張っていくような学生がいますと、他に消極的な学生がいても、クラス全体の運営は、うまくいくと言っていると思います。ところが、最近の状況は、まずいことには女性が非常に多くなりまして教室の前のまん中の方を女の子達が占めてしまって、男性が周辺にパラパラと居ます。そして、日本の伝統的な習慣で女性は積極的なリーダーの役をしないと云いますか、してはいけないという風なことになっているのでこういう役割を果たしません。男性は、少なくなっていますのでやはり消極的です。従って、積極的な教室でのリーダー役がいないので、この3年程は、クラス運営で非常に困っています。」

溝 上：「他の先生方がいいかでしょうか？」

パルダン：「私どもの学科でも3分の1が男性、3分の2が女性なんですが、私の考えでは男性、女性半々が一番いいのではないで



しょうか。男子学生というのは、非常によく出来るかそれともさっぱり出来ないか両極端です。一方、女子学生は、まずまず出来るという感じでしょうか。半々が何故いいかと言いますと、女子学生がまん中を占め、男子学生が横で小さくなっているのが見受けられるのであまり女子が多過ぎるというのも困るんですが、それにしても何故男女というのが大事なんでしょうか、私の国では、男子であっても女子であっても別に授業では変わらないわけです。ところが、日本ではどうも男子、女子というのは全く分かれてしまっている。従って、結果的には半々というのがベストということになるのです。」

フォードロヴァ：「男女の性的問題というのは、外国語教育において本質的なことではありませんので、本来全く別の機会で話し合うべきだと思います。」

フン：「皆さん方は大きな言語のクラスで、我々少数民族の言語とは状況が違うんじゃないかと思えます。皆さんがおっしゃっているような男女の差という問題は、私の学科であまりありません。しかし、男女の差というのは、大事なことで、ベトナム、中国、日本も含めて東洋では、男女の差をよく考えておく必要があると思えます。東洋的な考えで、男は、30にして立つといふように、男は、30にならないならばその成熟度を見せることは出来ない。女は、18でその成熟度を見せるといわれてますから、女が強いのが当たり前なんです。こういうことは東洋的なことでありますから皆様もわきまえて欲しいと思えます。それから、基本的なことでもありますけれど、東洋では沈黙が重んじられるということがありますので、そのこともわきまえてクラスの中では教師は、学生との間の壁を取りのぞくような努力をすべきです。こういう男女差は前提として大事にして考えていく必要があると思えます。」

宿：「男女の問題について、ちょっと補足したいと思えます。女性が段々多くなっていき男性が減ってきているということは、日本の社会の通性として、私達がどうすることも出来ない問題です。私が、先程、申し上げたかったことは、男子学生が段々減ってきたのでみんなを引っ張っていくという作用が少なくなってきました。つまり、みんなを引っ張ってクラス全体をリードするそういう働きをしなくなっています。女性ももともと積極的な動きをしません。ですから、最近、クラスの運営がやや難しくなってきたと思えます。クラスには、どこでも大体、良く出来る学生、普通の学生、あまり良くない学生と3種類がいると思うのですが、いつもよく出来る学生にいい刺激を与えて、他の学生達を引っ張っていかせることでクラスの運営をうまくやっていくことが大事だと思います。また、これからはそれが男子学生であろうと女子学生であろうと、どのように彼らをうまく啓発していくかということをも自分としては考えて努力していきたいと思えます。」

溝上：「有難うございました。もっと色々お話を伺いたいのですが、特にロシア語の先生から具体的に、日本人に対して教授法のハンドブックを作れとか、LL教室をもっと活用すべきだとか色々具体的な提案をいただきまして、それについても議論したかったのですが、丁度時間になりましたので、残念ながらこれで打ち切らせていただきたいと思えます。いつも思うのですが有益な議論がでも、時間不足のため、議論が尻切れトンボになってしまうのを毎年のごとく反省しております。しかし、今日は最後の方で、思わず文化の違いが出てまいりまして非常に面白かったということのをべて、議長として感謝したいと思えます。有難うございました。」

〈LL 便り 1〉

テープ・ライブラリーの利用状況について

(1991年4月～1992年2月)

今年度のテープ・ライブラリーの利用状況の統計を紹介します。

1. まず、月別の映像、音声資料の利用回数(表

①、グラフ①)です。(映像資料については、グループ視聴が半数以上ありますので、利用回数イコール利用者数ではありません。)

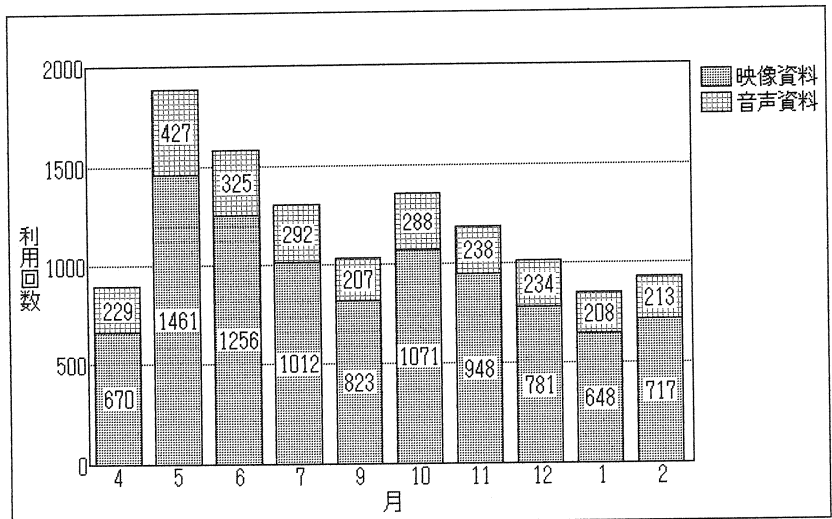
表①

映像・音声資料月別利用回数

月	映像資料	音声資料
91/4	670	229
5	1,461	427
6	1,256	325
7	1,012	292
9	823	207
10	1,071	288
11	948	238
12	781	234
92/1	648	208
2	717	213
合計	9,387	2,661

グラフ①

映像・音声資料月別利用回数



2. 次に、資料の内容別の統計(表②)です。映画・音楽の利用は8,068回と毎年のごとく非常に多いのですが、一般教養、ワールド・アジア、ニュースの利用も徐々に増える傾向にあります。音声資料

については、今年度より音楽CDの貸出(館内のみ)サービスを実施しましたが、予想以上に多い利用回数でした。

表② 資料内容別利用回数

映像資料		音声資料	
映画・音楽	8,068	語学・一般	2,267
一般教養	745	雑誌	247
持込み	336	音楽	147
ワールド・アジア、ニュース	238		

3. 語学科別の利用回数表（表③、④）です。

表③ 映像資料語学科別利用回数

語 学 科 名	合 計	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
中 国 語	886	308	204	229	145	
英 語	882	270	245	144	223	
フ ラ ン ス 語	633	143	162	190	138	
ロ シ ア 語	527	177	158	73	119	
イ ス パ ニ ア 語	521	97	153	177	94	
アラビア・アフリカ語	499	148	167	58	126	
インド・パキスタン語	460	129	152	83	96	
イ タ リ ア 語	444	180	112	139	13	
インドネシア・フィリピン語	364	122	85	121	36	
日 本 語	282	74	62	68	78	
ド イ ツ 語	262	103	85	56	18	
ポルトガル・ブラジル語	183	33	43	51	56	
タイ・ベトナム語	177	75	34	26	42	
モ ン ゴ ル 語	170	39	22	87	22	
ペ ル シ ャ 語	170	57	50	44	19	
デンマーク・スウェーデン語	164	35	41	39	49	
朝 鮮 語	154	83	39	20	12	
ビ ル マ 語	94	26	19	43	6	
II 部 英 語	258	58	22	28	132	18
II 部 中 国 語	218	33	56	2	116	11
II 部 フ ラ ン ス 語	182	17	119	33	2	11
II 部 ロ シ ア 語	67	42	8	1	8	8
II 部 イ ス パ ニ ア 語	56	12	32	4	1	7
II 部 ド イ ツ 語	53	39	5	7	1	1
留 学 生	1,377					
大 学 院 生	148					
教 職 員	85					
そ の 他	71					

表④ 音声資料語学科別利用回数

語学科名	合計	1年	2年	3年	4年	5年
フ ラ ン ス 語	494	199	152	106	37	
中 国 語	186	44	59	19	64	
イ ス パ ニ ア 語	157	51	25	52	29	
ロ シ ア 語	144	22	28	30	64	
英 語	135	15	40	22	58	
アラビア・アフリカ語	132	38	37	33	24	
インド・パキスタン語	131	12	40	71	8	
日 本 語	128	39	22	41	26	
タイ・ベトナム語	88	29	31	15	13	
ペ ル シ ャ 語	83	31	21	24	7	
インドネシア・フィリピン語	82	11	5	38	28	
イ タ リ ア 語	82	27	16	36	3	
デンマーク・スウェーデン語	33	3	8	1	21	
ド イ ツ 語	31	17	0	9	5	
モ ン ゴ ル 語	29	5	1	18	1	
ポルトガル・ブラジル語	26	10	7	6	3	
ビ ル マ 語	14	12	2	0	0	
朝 鮮 語	10	5	4		1	
II 部 ロ シ ア 語	89	28	1	0	4	56
II 部 フ ラ ン ス 語	41	15	7	17	0	2
II 部 イ ス パ ニ ア 語	40	34	1	3	0	2
II 部 英 語	24	0	8	2	2	12
II 部 ド イ ツ 語	18	0	0	15	2	1
II 部 中 国 語	17	2	5	1	8	1
留 学 生	257					
そ の 他	76					
教 職 員	59					
大 学 院 生	55					

4. 今年度利用頻度の高かった資料のベスト20です。(表⑤、⑥)

表⑤ 映像資料利用回数ベスト20

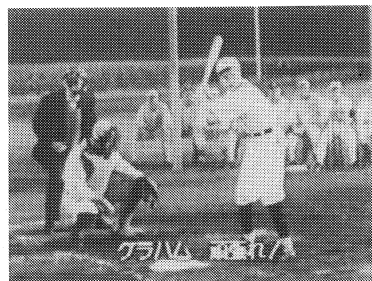
映 画		一 般 教 養	
資 料 名	利用回数	資 料 名	利用回数
1. いまを生きる	161	1. 世界民族音楽大系	18
2. ニュー・シネマ・パラダイス	125	2. 日本語教育映画	16
3. フィールド・オブ・ドリームス	121	3. 日本語授業の実際	14
4. ゴッド・ファーザー	100	4. シルクロード 第1部	13
5. ローマの休日	90	4. 大黄河	13
6. バック・トゥ・ザ・フューチャー II	89	6. In Italiano	12
7. レインマン	80	7. 中国中央電視台	11
7. ドライビング・ミス・デイジー	80	7. 地球の歩き方	11
9. ゴッド・ファーザー 2	75	9. シリーズ「アフリカ」	9
10. シャーロック・ホームズの冒険	67	9. 英語についての9章	9
11. 告発の行方	66	11. アインシュタイン ロマン	7
12. カサブランカ	63	12. 河殤	6
12. 愛と青春の旅立ち	63	12. チャイナ・ナウ	6
14. ティファニーで朝食を	60	12. Fodbold' 84	6
15. 第三の男	58	12. Bienvenue en France	6
15. 危険な情事	58	12. 三年たって恋	6
15. 薔薇の名前	58	17. 春節聯歡会	5
18. モーリス	56	17. 英語は度胸	5
19. タクシードライバー	55	17. 南インド仮面舞踊劇	5
19. バック・トゥ・ザ・フューチャー III	55	17. 古代朝鮮史	5



(いまを生きる)



(ニュー・シネマ・パラダイス)



(フィールド・オブ・ドリームス)

〈レーザー・ディスクより画面コピー〉

表⑥ 音声資料利用回数ベスト20

語学・音楽・その他		雑 誌	
資 料 名	利用回数	資 料 名	利用回数
1. Basic Spoken French	307	1. アルク地球人ムック	41
2. Japanese for Today	114	2. English Journal	39
3. グラモフォンCDベスト100	63	3. 時事英語研究	25
4. TOEIC の英語	38	4. Active English	22
5. 目で見るフランス語発音入門	35	4. NHK ラジオ英会話	22
6. Elementary modern standard Arabic	34	6. English Journal 別冊	21
7. 桂米朝上方落語大全集	33	7. English Express	19
8. Basic Spoken Spanish	30	7. English Express 別冊	19
8. 民族音楽大集成	30	9. L'echo de la France	15
10. 英検カセットブック 1級～3級	29	10. FEN ガイド	8
11. 総合日本語 中級	25		
12. 英検サクセスブック 準1級～2級	23		
12. Je t'aime	23		
14. 最新中国語教本	19		
14. Deutsch 2000	19		
15. 初級フランス語文法	15		
16. 聴聴説説	14		
16. 実用漢語課本 日本語版	14		
16. バタオネのインドネシア語講座	14		
16. ラジオ番組「朝日新聞の声」を聴く	14		

5. 最後に、各語学科でどのような言語の音声資料、映像資料がよく利用されたか利用頻度の高い順(1～3)に表にしました。(表⑧)尚、言語は記号で表しましたので言語記号表(表⑨)を参照して下さい。

また、映像資料の利用回数が一番多い留学生の利用頻度の高い資料を紹介します。(表⑦)

以上7つの統計表等を紹介しましたが、視聴覚資料係では、これらの統計等を基に視聴覚教育に有効かつ効果的な資料の充実を計りたいと思います。

表⑦ 留学生利用回数ベスト10

映像資料	音声資料
1. NHK 日本語講座	1. Japanese for today
2. 映「007 シリーズ」	2. 総合日本語 中級
3. ワールド・ニュース (衛星第1)	3. 朝日新聞の声を聴く
4. 映「レインマン」	4. Japanese for beginners
5. 映「危険な情事」	5. Facts about Japanese
6. 日本語教育映画	6. Japanese conversation for foreigners
7. 映「トップガン」	7. 日本語いろいろ
8. 映「ゴッド・ファーザー」	8. Intermediate Japanese
9. 映「タクシー・ドライバー」	9. Introduction to modern Japanese
10. 映「ゴッド・ファーザー 2」	10. 話ことばの基礎訓練

表⑧ 語学科別利用資料（言語別）頻度表

語学科名	頻度順	音声資料			映像資料		
		1	2	3	1	2	3
中国語		C	X	E	E	C	F
朝鮮語		K	E	F	E	K	J
モンゴル語		E	M	C	E	F	J
インドネシア・フィリピン語		IN	E	C	E	IT	C
インド・パキスタン語		E	F	X	E	H	J
タイ・ベトナム語		E	T	F	E	T	IT
ビルマ語		F	IT	E	E	F	IT
アラビア・アフリカ語		A	E	X	E	F	IT
ペルシャ語		P	E	IT	E	IT	J
英語		E	F	S	E	F	J
ドイツ語		D	X	J	E	D	F
デンマーク・スウェーデン語		DE	SW	E	E	F	SW
フランス語		F	E	J	E	F	J
イタリア語		E	IT	F	E	IT	F
イスパニア語		S	E	X	E	S	F
ポルトガル・ブラジル語		PB	E	S	E	F	PB
ロシア語		R	F	E	E	F	R
日本語		F	J	E	E	F	J
II部中国語		C	E	J	C	E	S
II部英語		E	F	C	E	SW	IT
II部ドイツ語		D	F	E	E	D	C
II部フランス語		F	C	E	E	F	IT
II部イスパニア語		S	E		E	S	C
II部ロシア語		R	F	D	E	H	R
留学生		J	X	E	E	J	F

表⑨ <言語記号表>

記号	言語
A	アラビア語
B	ビルマ語
C	中国語
D	ドイツ語
DE	デンマーク語
E	英語
F	フランス語
H	インドー諸語
IN	インドネシア語
IT	イタリア語
J	日本語
K	朝鮮語
M	モンゴル語
P	ペルシャ語
PB	ポルトガル・ブラジル語
R	ロシア語
S	イスパニア語
SW	スウェーデン語
T	タイ語
X	音

<ビデオ・テープより画面コピー>



(世界民族音楽大系)



(日本語授業の実際)

<LL 便り 2 >

新規購入映像資料 (レーザー・ディスク) 所蔵一覧

その9

(1992年3月現在)

資 料 名	音 声	所用時間	資料番号
The blues brothers (ブルース・ブラザーズ)	(英 語)	2'13"	E-0516
Momo (モモ)	〃	1'45"	E-0517
Clockwork Orange (時計じかけのオレンジ)	〃	2'17"	E-0519
Fantasia (ファンタジア)	(音 楽)	1'57"	E-0520
Bagdad cafe (バグダッド・カフェ)	(英 語)	1'31"	E-0521
Tosca (トスカ 歌劇)	(イタリア語)	2'07"	IT-0087

編 集 後 記

◇ Audio Visual Journal 第22号をお届けします。

今号は、外国人教師による座談会(第8回)の特集とテープ・ライブラリーの利用統計を紹介しました。

テープ・ライブラリーの利用状況は、映像資料については、昨年度と横ばいの利用回数でしたが、音声資料については、紙面でも紹介しましたように、今年度よりCDプレーヤーを4台設置し、モ

ーツァルト全集、クラシック・ベスト100等の貸出を実施しましたが、利用の多さには驚きました。

レーザー・ディスクにコンパクト・ディスクと世はまさにデジタル化時代です。ノイズのない音、素早い頭出し、長期保存が可能な盤は非常に素晴らしいと思います。が、我らアナログ電送音楽に熱中した世代にとってはちょっと寂しい気分です。
(I. A.)

AV Journal 一第22号一

1992年3月15日発行

編 集 大阪外国語大学視聴覚教育委員会
附 属 函 書 館 視 聴 覚 資 料 係
発 行 大 阪 外 国 語 大 学
印 刷 (株) ム ラ タ 印 刷